シンポジウム
Colloque

# Terreur et rhétorique : Giraudoux, Sartre, Blanchot

レトリックとテロル　：　ジロドゥ／サルトル／ブランショ

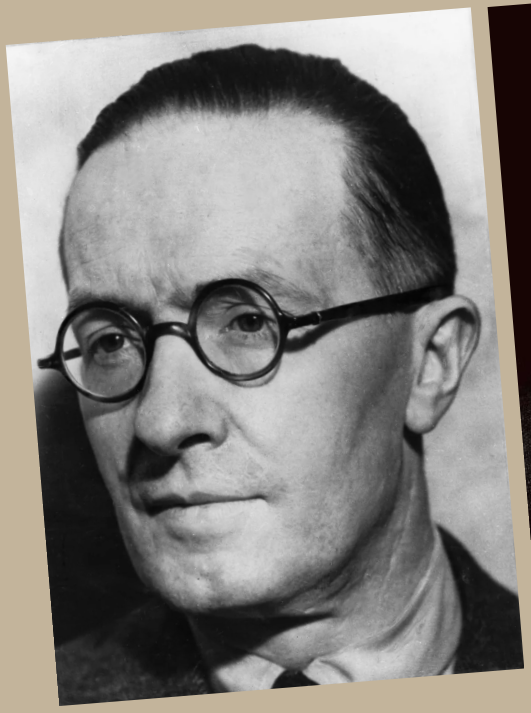
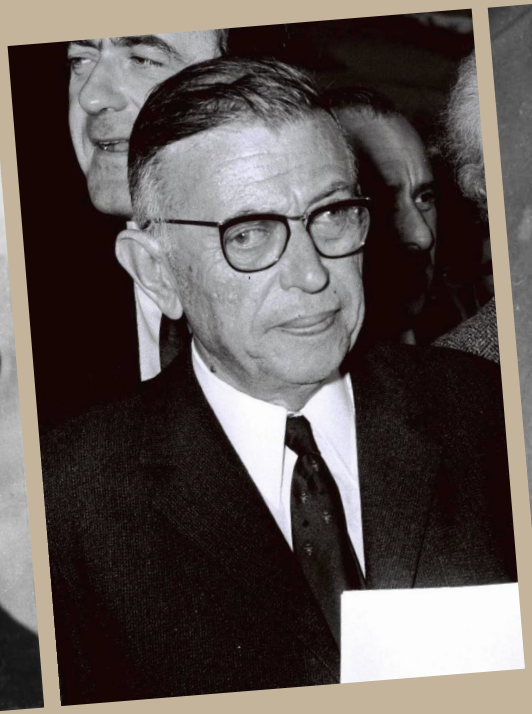
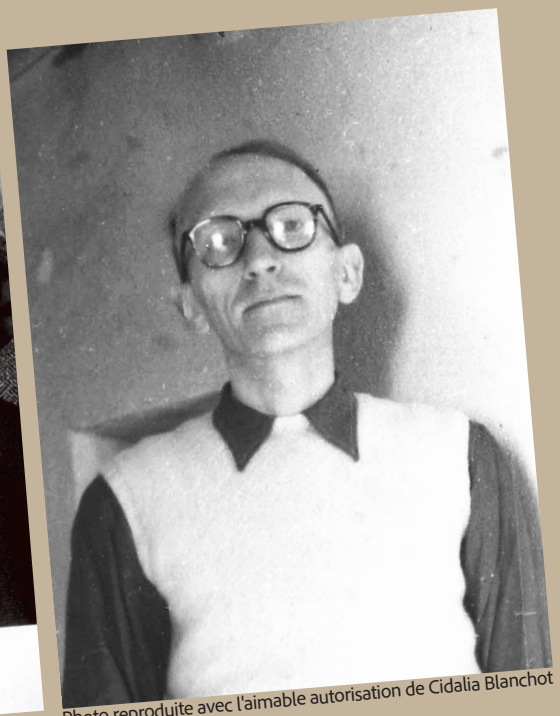

Photo reproduite avec l'aimable autorisation de Cidalia Blanchot

**2023年10月14日（土）14：00～17：40**
**2023年10月15日（日）10：00～18：30**

日仏会館 1階 ホール

**発表者：**
間瀬幸恵, 中村典子, 田ノ口誠悟, ヴァンサン・ブランクール,
アンドレ・ジョブ,澤田直, ジル・フィリップ, 渡辺 惟央, 市川崇, 郷原佳以,
築山 和也, クリストフ・ビダン

SJLLF 日本フランス語フランス文学会
La Société japonaise de langue et littérature françaises

MFJ 日仏会館

本シンポジウムは、第二次世界大戦中のフランス文学の転換点に関して、ジャン・ジロドゥ、ジャン=ポール・サルトル、モーリス・ブランショを中心に検討します。当時栄光の絶頂にいた劇作家・小説家ジロドゥに関して、いまだ大家となる前のサルトルとブランショは『シチュアシオン』と『踏みはずし』で重要な論考を発表しました。論点となったのは言語と言語に寄せるべき信頼の問題です。その背景には『タルブの花』でポーランが提起した問いがあります。以上を出発点とし、文学におけるレトリックと、レトリックへの異議提起としてのテロルの問題、作家たちが互いの著作と対話しながらいかに問いを立て、自らの言語観を鍛え上げていったかを見ることにします。

Il y a presque 80 ans, disparaissait brutalement Jean Giraudoux, dramaturge et romancier alors au faîte de sa gloire. Dans les années qui précédèrent sa mort, Sartre et Blanchot, encore jeunes auteurs, consacraient à son œuvre dans *Situations I* et dans *Faux Pas* des articles marquants où était posée la question du langage et de la confiance à lui accorder. En arrière-plan se laissaient deviner les interrogations de Paulhan exprimées à la même époque dans *Les Fleurs de Tarbes*.

Ce colloque sera l'occasion de se demander quelle place occupe l'œuvre de Giraudoux dans ces réflexions, d'explorer ces questionnements qui conduisent Sartre et Blanchot, dialoguant avec elle mais aussi avec celle de Paulhan, à définir leur propre position face au langage.

*La table ronde du 15 octobre sera accompagnée d'une traduction simultanée.*
*Une version japonaise des 4 interventions en français sera distribuée.*
同時通訳は2日目ラウンドテーブルのみ。フランス語発表には日本語訳が配布されます。

# Programme

## 10月14日（土）：14:00〜17:40

**14:00：**開会挨拶

### ジロドゥを巡って / Autour de Giraudoux

**演劇**
司会：田ノ口誠悟 (国際基督教大学)

JP **14:10**『ルクレチアのために』『シャイヨの狂女』の今日的意義—暗闇のなかの手つかずの可能性—
間瀬幸江（宮城学院女子大学）

JP **14:50** ジロドゥの戯曲『エレクトル』とサルトルの戯曲『蠅』の比較における考察
中村 典子（甲南大学）

**15:30** 休憩

**言語**
司会：間瀬幸江（宮城学院女子大学）

JP **15:50** 言葉、プロパガンダ、映画：ジャン・ジロドゥの言語観とその映画作品の関係
田ノ口誠悟（国際基督教大学）

FR **16:30**「限界体験」への誘惑：ジロドゥの演劇における女性の登場人物とアイデンティティの境界
ヴァンサン・ブランクール（慶應義塾大学）

FR **17:10** ジロドゥ：「疑いと不安のない」レトリック（C.E.マニー）？
アンドレ・ジョブ（グランゼコール準備学級名誉教師）

## 10月15日（日）10:00〜18:30

### レトリックとテロル / Terreur et rhétorique

司会：市川崇（慶應義塾大学）

JP **10:00** サルトルの考えるテロ：シュルレアリスムからネグリチュードへ.
澤田直（立教大学）

FR **10:40** ある挫折の解剖学---ポーランとブランショのあいだのサルトル(1945-1952)
ジル・フィリップ（ローザンヌ大学）

JP **11:20** ブリス・パランとジャン・ポーラン：「言葉の力」をめぐって
渡辺 惟央（慶應義塾大学）

**12:00** 休憩

司会：澤田直（立教大学）

JP **13:30** 常套句の振動と揮発——ポーランからブランショへ
郷原佳以（東京大学）

JP **14:10** 自由か死か　— ブランショ の二つのテロル
市川崇（慶應義塾大学）

JP **14:50** モーリス・ブランショの文学時評：ロートレアモンと小説の問題
築山和也（慶應義塾大学）

FR **15:30** ブランショ、ジロドゥ、サルトル——感性の問題
クリストフ・ビダン（ピカルディー大学）

**16:10** 休憩

FR JP **16:30** ラウンドテーブルと質疑応答（同時通訳付き）

**18:00** 閉会挨拶

デザイン：Martin Faynot

主催：日本フランス語フランス文学会 / *SJLLF*
共催：（公財）日仏会館 / *Fondation Maison franco-japonaise*
協賛：慶應義塾大学、東京大学郷原佳以研究室、立教大学 / *Laboratoire de Kai Gohara (Université de Tokyo), Université Keio, Université Rikkyo*